



よき幼稚園 (二)

お茶の水女子大學
附屬幼稚園主事

及川ふみ

幼稚園の生活が、子供の身體的發育の爲にどんなに役立たなければならぬか、又それがどんなに大切なことであるか、それならば幼稚園の環境は具體的にどんなであつてほしいか、健康のために、どんなよい習慣をつけたいかについて今まで考えて見た。

これについて今までのべた一つ一つの事柄は、何一つとして目あたらしいものはなかつたのではあるが、毎日の幼稚園の生活の中で、この健康の爲のよき習慣への途がどんなに進められているか、はたまた先生たちがこのよき習慣をつける事に、毎日の保育の中に重要なポイントとしてゐるかという事についてであつた。

次に子供の幼稚園生活のきまりをよく守る躰について話してみたい。

子供によい習慣をつけ、躰をする前に子供が、幼稚園や、先生、お友達に對して親しみが出來た上でないと、ほんとの躰は出來ないと思われる。即ち幼稚園の生活に子供が、安定感をもつてこそ、幼稚園の生活に對して心よくそのきまりが

守られてゆくものである。幼稚園は面白いところである、楽しい場所であると子供が思い、先生は自分をよく可愛がつて下さる、すきな人であると、子供がしたしみ、お友達は皆よく自分と遊んでくれる仲よしであると云う心持ち、即ち安定感が先ず第一の必要な状態であることである。入園當初先ず情緒的生活において子供の安定感ということが問題であらねばならない。

さて安定感が出來たとして、幼稚園のきまりについて、朝の挨拶をしましょう

朝登園の直後、先生に對して、きげんのよい顔で、「お早う御座います」の言葉と同時に禮をする。

小人數の組であれば、出來ればお友達にも、挨拶してもよいが大勢一組の場合が多いから、お友達を代表して先生が挨拶を受けることにする。

これは年少の子供でも、出來ることであるからなるべく早くから始めたい。こんな簡單なことでも、始めのきつかけを失うと、朝あつてもぢろぢろ顔を見ていて言葉もかけず、禮

もしないでいる子供もある。こんな時には先生は、きげんよく「お早う」とこちらから言葉をかけることを忘れてはならないと思う。

廊下や、保育室では出来るだけ静かに歩きましょう。

廊下や、保育室で静かに歩けないのは日本の子供の缺點の一つと思われる。二度アメリカン スクールを見學にいつても感じることは、子供たちが保育室や廊下（即ち屋内）では實に靜かに動作していることである。走らないで、靴音をたてない様に、靜かに歩いていることである。したがつてお互の話聲も靜かで小さくてもよくききとれる環境にある。この點日本の大抵の幼稚園は、室内の様子が少し賑かすぎ、さわがしすぎる様である。雨の日や、寒い風の日などやむを得ず屋内で、外遊びと同様のことをして遊ぶ場合の外はこのよき習慣をつけたい。

廊下を驅けていてお友達とぶつかつたり、ドアにつきあつたり、などして、けがなどすることもあるし、靜かにお話を聞いたり、紙芝居を見ているときに、廊下の音がやかましくして、その聲がよくきこえないでこまるなどを子供たちと話し合つて、どうして廊下やお部屋の中では靜かに歩かなくてはならないかと云うことを考えさせたい。

集團生活には自分一人の都合がよくても、お友達が迷惑することはやめなければならぬ。廊下をどたばた驅け出して大きな靴音をたてては他のお友達がこまること、ぶつかつては、お友達に危険な目にあわせることなどをよく話してみ

ると子供たちもこれを了解することと思われる。アメリカン スクールの子供たちの屋内の動作の靜かなことは、家庭生活の躰から來ていることなども考へられるところであるが、よい習慣をつけたい。

おもちゃなど使つたものの後かたづけをよくしましょう。

これは廣い意味でのおもちゃと云うことで、おままと道具、乗物ごつこの諸道具、マリヤ、繩とびの紐、砂場のおもちゃから、所謂保育用具の帳面、クレオン、織、製作の材料、繪本、積木の類、あらゆる子供たちの遊び道具の後片付けをよくすることである。子供がおもちゃの中で大活動をして、その場にいろ／＼のものがちらかつてゐることは、いかに活潑に子供等が行動しているかの様子がよく見えてよいが子供たちの退陣した後、材料や、道具が亂雑にとりのこされてゐることは、よい環境ではない。仕事や遊びの始めにあつて後片付のことも子供たちと話しあつて責任をもつて後片付けをさせることである。

そこで先生の方でも、いかに子供が後片付けをするのに、都合よくしておくかと云うことに注意をはらいたいことである。

繪本をたてる本立、積木の箱の置場、おままと道具の棚、保育用具入のための銘銘タンス、など子供たちがそれぞれのおもちゃが手軽に後片付が出来る環境を作つておくことについて考へておくことである。子供の手のとどく高さの棚、運べる位の重さ、持てる位の大きさの箱などを先生は常に、よ

き習慣をつける爲のよき環境をととのえておくことである。先生に對して信頼出来る氣持ちは、その約束が、實行出来る様な状態におかれてゐることであるとも思われる。もしも後片付がいつもよく出来てゐない場合には、先生はどこにその原因があるかを靜かに考へてみる必要がある。無理であるが氣がつくとすぐにやり方を考へ直すべきであらう。

お當番の責任をはたしましょう。

お辨當の支度、砂場の後片付、お歸りの當番など毎日の幼稚園の生活の中で、子供たちが交代して、當番にあたることである。子供の頃から適當な責任感をもたせてよいことである。そしてこの當番は實際には子供たちが、喜んでするものである。子供の成長の状態によつてやり方が考へられるが、お辨當の支度についていつてみると、食事をする部屋の整理整頓、お盆くばり、お湯くばり、皆に「いただきます」の挨拶なども出来ればよいことである。

おもちゃや、砂場の後片付なども子供たち個人個人がするのではあるが、誰が持ち出したのか、誰が使つたものかがわからずに、子供の大體後片付のすんだ後にも、とりのこされているおもちゃや、運動場の紙屑などの始末する當番、お歸りの時の當番など、一組二種か三種の當番を二人づつ位定めておいてすることである。これについて先生がよく考へて、當番の子供が、當番の責任を充分に果せる様に先生も、お友達も協力することである。お歸りの時の當番、おもちゃや、運動場の後片付などの場合はことに先生や友達との協力が是非必

要である。當番の子供もお友達と一緒に歸れる様に、歸る時間の前、少くとも二三分はこのための時間をもつべきである。先生は當番でない人達たちをお部屋に入れて、お話をしたり、うたを歌つたりして、當番の子供がおちついてその責任がはたせる様にまつてゐることである。後片付がすんで入つて來た友達に暗暗のうちに「ありがとう」とゆう氣持をあらわしたいと思う。何何の當番、だれだれ、何何の當番、だれだれとその翌日の當番の子供の名前を、保育室の黒板に書いて翌日の當番を知らせておくのである。字をよむことにも役立つものと考えられる。

自分の順番をまぢましょう。

組のお友達と一緒に行動するときには、この順番をまつことをよく守らないと、混雑して秩序が亂れる。自分だけの都合を考へて、行動することは集團生活には許されないことであつて、子供の時からこの習慣が出来てゐないから、大人になつて電車や汽車に乗る時の混亂や、その他いろいろの集團生活に無作法に先を争うことがおこるのである。

幼稚園のおもちゃや、運動具を獨占しないで、皆でかわるがわる使うことにしましょう。

幼稚園のおもちゃや、運動具は子供の數だけあるわけでないから、友達が交代で使わなくてはならない。外庭の運動具を年長組の子供たちに占領されてしまつたり、或は大積木を組の勢力家に多く使われすぎたりしないことである。占領する子供も勿論よくないことであるとともに、(一二頁へ)

4、昭和二四年度と昭和二五年度との比較（一は減）

24年度の増減	計	私立	公立	国立	区分		
257	324	260	63	1	園 數		
1,391	998	793	208	-3	總計		
244	299	233	63	3	園長		
435	422	354	62	6	教諭		
688	496	406	94	-4	助教諭		
34	34	7	27	0	養護教諭		
	14	17	-3	0	養護助教諭		
-12	17	24	-3	-4	講師		
	-282	-246	-32	-4	その他教員		
550	875	594	276	5	組 數		
14,489	-1,950	1,111	-3,078	17	男兒	幼兒數	
15,160	-2,606	67	-2,623	-50	女兒		
29,649	-4,556	1,178	-5,701	-33	計		
16.81%	15.42%	21.20%	7.49%	3.03%	幼稚園數增加率		
19.81%	10.60%	14.47%	5.47%	-2.27%	教員總數增加率		
22.66%	13.41%	18.66%	5.48%	2.12%	教諭・助教諭增加率		
14.89%	-2.03%	10.33%	-5.31%	-1.12%	幼兒數增加率		

中に對して整容に氣をつけること、歸りの挨拶など快よく「さよなら」をとりかわして歸ることなど毎日の生活へのよき習慣について考へてみたのである。

朝の挨拶・廊下や保育室では出来るだけ静かに・おもちやの後片付・お當番の責任・自分の順番をまつ・共同のおもちやを獨占しないこと・など以上數種の幼稚園生活に必要な、又あつてほしい、よき習慣をあげてみたのであるが、これで勿論充分というわけでもないから、それぞれの幼稚園でその事情によつて、必要なぞましいよき習慣を考へて、實行されることをのぞむのである。最初に子供たちのよき習慣を考へる前に、これを受ける子供たちの心もちの云うことを考へなくてはならないことを繰りかへして思う。即ち家庭からはなれて、最初の集團生活に入つた子供達の心境に、このよき習慣がながれこめるだけの用意の出来ることである。幼稚園は楽しい場所である、先生は大すきなよい人である、お友達は何件よしである、毎日の幼稚園生活が楽しい、うれしいといふ安定感をもつてこそ、よい習慣がのぞめるのであるよい幼稚園は、先ず子供の爲に健康を思い、次によい生活のための習慣を考へるべきではなからうか。

(一五頁より)
占領されて黙つてゐる子供も亦よくないことである事を知せなくてはならない。

歸宅の前の用意をしましょう。

お歸の時の豫告を受けたら、遊びをやめて、後片付けが出来れば、手を洗い、用便をすませ、お辨當、外套などの持ち物の支度、よごれたエプロンのとりはずしなど、歸宅への途